

無線使い被災地支援

県内外のアマ無線有志

連絡、情報交換円滑に

室根山にアンテナ 物資需給など発信

県内外のアマチュア無線グループ有志は、東日本大震災の被災地支援へ災害時緊急広域無線ネットワークを立ち上げた。一関市の室根山(899.5m)山頂にアンテナを送受信機(基地レピータ局)、同市のひがしやま病院に無線ボランティアセンターを設置。情報インフラの復旧が遅れている地域の緊急連絡やボランティア団体などの情報交換を支援する。

救急医療など被災地域の緊急連絡手段の確保と支援団体などの円滑な情報交換が狙い。

また、沿岸部の支援活動や内陸部でバックアップすることや沿岸、内陸住民一体の地域活性化を目指す。

有志が日本アマチュア無線連盟から貸与された基地レピータ局を室根山頂に設置。ひがしやま病院の岡崎宣夫医師(61)が同病院にアン

テナを立て、4、5人が常時担任できる無線ボランティアセンターを立ち上げた。ここで、たくさん集まった情報を「交通整理」する。当前、陸前高田市広田町周辺に専用無線機

を置く。一般の無線からもアクセスでき、今は無線ボランティアを全国に公募する。基地レピータ局設置により、沿岸部は釜石市から宮城県石巻市周辺、内陸部は滝沢村から宮城県白石市周辺まで常時、無線で連絡を取り合える環境が整う。支援内容や物資の供給状況など発信された情報に受信者が応じることで支援活動の広がりも期待できる。

センターは全国への支援要請も視野に入れ、ボランティアなどの支援団体に対し、アマチュア無線資格をメンバーに加えることを勧める。

無線での支援は、岡崎医師の発案。地震発生時、東京都内に滞在していた岡崎医師は情報を多くの人に同時に共有する無線に奮闘し、仲間と呼び掛けた。岡崎医師は「非常事



専用の無線機を手にする岡崎宣夫医師

岡崎医師は「非常事

際の中、緊急連絡業務を支援したい。被災地支援は長期に及ぶ。無線で情報やアイデアを出し合い、連携することで活動の効率化、裾野の広がりに結び付けた」と話す。

レピータ局波数は439・44MHz、トーン88・5Hz。問い合わせは岡崎医師の個人コール(JA1LRT)へ。岡崎医師(080・35309・7000)へ。